

第8回「資産運用の基礎（その1）～資産運用は長期で考える～」

三菱UFJ信託銀行 菅谷 和宏

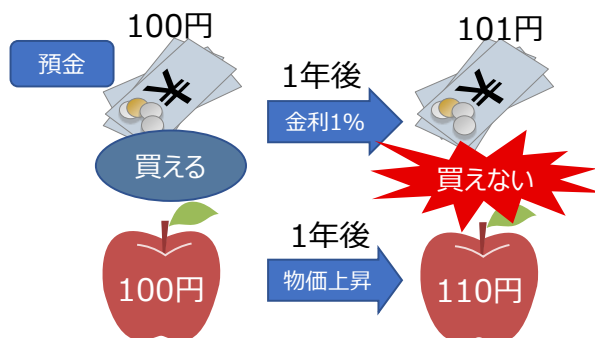
前号では2024年1月にスタートした、「新NISA（少額投資非課税制度）」の説明をしました。でもまだ、資産運用が”不安”という方のために、「資産運用の基礎」を何回かに分けて分かりやすくご説明します。

【資産運用の基礎-①】 ◆資産運用って本当に必要なの？◆

今、あなたの手元に100円があります。銀行預金に預けると（金利1.0%と仮定）、1年後には101円になりました。しかし、品物の値段が上がり、100円で買えたものが110円に値上がりし、せっかく預金したのに1年後には買えなくなる場合があります（図表1）。

これは、「いわゆる物価上昇（インフレ）」により品物の値段が上がり、現金や預金等の金融資産の価値が相対的に減ってしまったからです。そのため、「金融資産の価値を増やす」ことが必要となります。

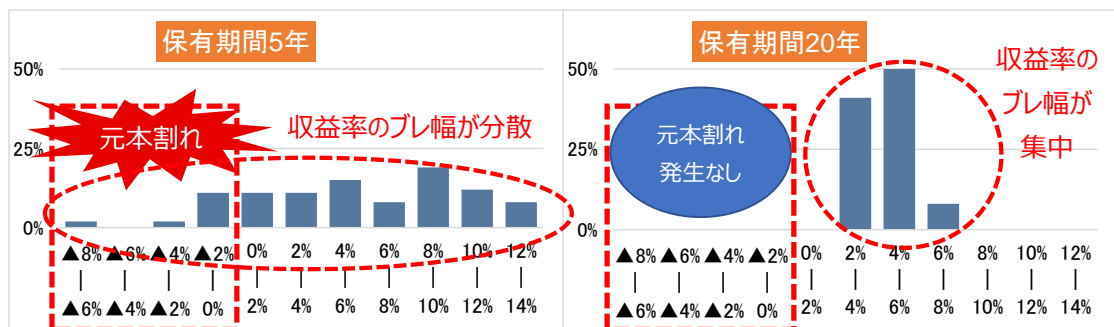
（図表1）1年後の金融資産の価値と物の値段



【資産運用の基礎-②】 ◆資産運用は長期で考えよう！◆

資産運用の基礎は「長期」「つみたて」「分散」です。「長期運用」とは、株価が上がった下がったで考えるのではなく、金融資産を長期で持ち続けることです。長い目で見れば、金融資産が預けた金額より小さくなる（これを元本割れと言います）ことは少なくなります。金融庁のガイドブックによれば、「保有期間5年」だと「元本割れ」が発生するケースがありますが（図表2左）、「保有期間20年」だと「元本割れ」が発生するケースは0%です（図表2右）。

(図表 2) 保有期間 5 年 (左) と保有期間 20 年 (右) の「元本割れ」の発生頻度

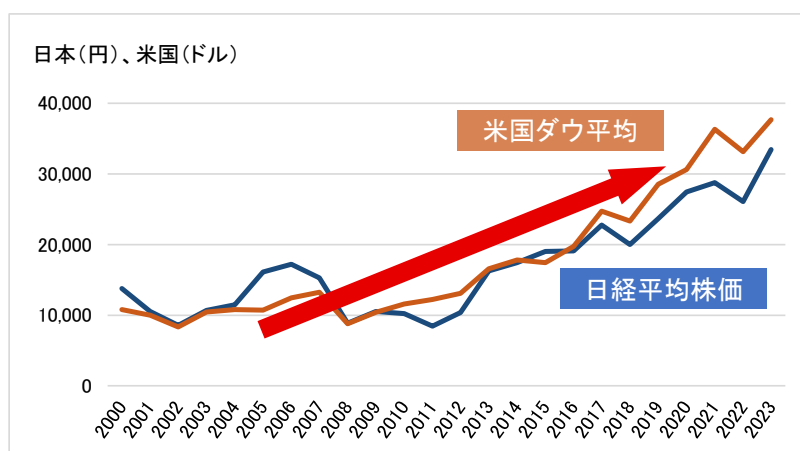


(出所) 金融庁「NISA 早わかりガイドブック」より筆者作成
<https://www.fsa.go.jp/policy/nisa/20170614-2/14.pdf>

また、(図表 2 左) では、収益率のブレ幅が「▲8%~14%」までと分散していますが、(図表 2 右) では、収益率のブレ幅が「プラス 2%~8%」までの間に集中しています。これは長期保有することで、リスク (収益率のブレ幅) が小さくなることを意味しています。

日本と米国の株価推移をみると、短期では下がる局面がありますが、長期では右肩上がりになっていることが分かります (図表 3)。資産運用は「長期保有」で考えることが大切です。

(図表 3) 日経平均株価^{注1}と米国ダウ平均株価^{注2}の推移



注 1 : 東京証券取引所プライム市場に上場する約 1,800 銘柄の中から日本経済新聞社が選定した 225 銘柄の株価をもとに算出している日本の代表的な株価

注 2 : ニューヨーク証券取引所やナスダック市場に上場している代表的な 30 銘柄を対象としてダウ・ジョーズ社が算出している米国の代表的な株価